

様式第 8

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
亀岡市	亀岡市	平成23年度～平成27年度	平成23年度～平成27年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標	現状 (割合※1) (平成21年度)	目 標 (割合※1) (平成28年度) A	実績 (割合※1) (平成28年度) B	実績B /目標A	
排出量	事業系 総排出量	6,753 t	6,087 t (-9.9%)	6,876 t (1.8%)	113.0%
	1事業所当たりの排出量	1,870 t	1,684 t (-9.9%)	2,113 t (13.0%)	125.5%
	家庭系 総排出量	18,586 t	17,121 t (-7.9%)	16,222 t (-12.7%)	94.7%
	1人当たりの排出量	184 kg/人	166 kg/人 (-9.8%)	162kg/人 (-12.0%)	97.6%
合 計 事業系家庭系総排出量合計	25,339 t	23,208 t (-8.4%)	23,098 t (-8.8%)	99.5%	
再生利用量	直接資源化量	201 t (0.8%)	200 t (0.9%)	170 t (0.7%)	85.0%
	総資源化量	4,431 t (17.5%)	5,457 t (23.5%)	4,511 t (19.5%)	82.7%
熱回収量	熱回収量 (年間の発電電力量)	— MWh	— MWh	— MWh	—
減量化量	中間処理による減量化量	19,396 t (77.2%)	17,333 t (74.7%)	17,603 t (76.2%)	101.6%
最終処分量	埋立最終処分量	4,910 t (18.7%)	3,775 t (16.3%)	3,854 t (16.7%)	102.1%

※1 排出量は現状に対する割合、その他の指標は排出量に対する割合

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成21年度)	目 標 (平成28年度) A	実 績 (平成28年度) B	実績B /目標A	
総人口	93,790	92,371	90,107	—	
公共下水道	汚水衛生処理人口	63,906	74,696	71,882	96.2%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	68.1%	80.9%	79.8%	
集落排水施設等	汚水衛生処理人口	4,659	7,306	6,732	92.1%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	5.0%	7.9%	7.5%	
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口	4,849	5,221	3,247	62.2%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	5.2%	5.6%	3.6%	
未処理人口	汚水衛生未処理人口	20,376	5,148	8,246	160.2%

2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの	11	ごみ処理対象品目及び手数料の見直し	亀岡市	粗大ごみのうちパソコン、消火器については、回収または手数料の見直しを検討する。	H23～H27 (H23～H27)	パソコンを含めた小型家電、プラスチック容器包装の分別収集を開始する等、ごみ処理対象品目の見直しを行った。
	12	環境教育	亀岡市	小学生の施設見学にて、ごみの分別や資源化の大切さを普及啓発する。	H23～H27 (H23～H27)	市内小学生に加え、自治会や市民団体等を対象とした焼却施設及び埋立処分施設の見学会を通じて、ごみの分別及び資源化に向けた啓発活動を実施した。
	13	普及啓発及び助成	亀岡市	資源ごみ集団回収への助成、生ごみ処理機の購入補助を継続する。	H23～H27 (H23～H27)	資源ごみ集団回収を実施する市民への助成、生ごみ処理機の購入補助を行い、資源化やごみ減量化の普及啓発に取り組んだ。
	14	マイバッグ運動の推進	亀岡市	クリーンかめおか推進会議等と協力し、マイバッグ運動を推進する。	H23～H27 (H23～H27)	イベント参加者へマイバックの配布を行い、マイバック運動の推進に取り組んだ。
	15	民間事業者によるリサイクルの推進	亀岡市	ホームページ等で民間事業者のリサイクル活動を広報する。	H23～H27 (H23～H27)	ホームページ、広報誌等により広報活動を実施した。
	16	生活排水対策	亀岡市	公共下水道等計画区域外地域へ浄化槽を整備する。	H23～H27 (H23～H27)	ホームページ、広報誌、組観覧等で整備に向けた啓発活動を実施した。
処理体制の構築、変更に関するもの	21	分別・ごみ出しルールの徹底	亀岡市	分別・ごみ出しルールを徹底し、リサイクル推進とごみ減量化を図る。	H23～H27 (H23～H27)	各種団体とごみの減量・資源化を推進するイベントを開催し、自治会等の依頼に応じて3R推進等の出前講座を実施した。
	22	事業系一般廃棄物の処理	亀岡市	産業廃棄物に該当しない事業系可燃性廃棄物の処理を行う。	H23～H27 (H23～H27)	事業系可燃性廃棄物の処理を実施した。
処理施設の整備に関するもの	1	桜塚クリーンセンター基幹的設備改良事業	亀岡市	長寿命化計画に基づき基幹改良事業を実施する。	H24～H26 (H24～H26)	長寿命化計画に基づき基幹改良事業を実施した。
	1	桜塚クリーンセンターへの先進的設備導入事業	亀岡市	基幹改良事業の平成27年度分を先進的設備導入事業として実施する。	H27～H27 (H27～H27)	基幹改良事業の平成27年度分を先進的設備導入事業として実施した。

	2	プラスチック製容器包装等ストックヤード施設整備事業	亀岡市	施設整備事業を実施する。	H25～H25 (H25～H25)	エコトピア亀岡敷地内にストックヤードを整備した。
	3	合併浄化槽整備	亀岡市	浄化槽普及推進地域において、個人設置型補助事業を実施する。	H27～H27 (H27～H27)	5人槽10基の設置を補助事業として実施した。
廃棄物処理施設における長寿命化計画策定支援事業に関するもの	31	桜塚クリーンセンター長寿命化計画策定事業	亀岡市	施設の長寿命化計画等を策定する。	H23 (H23)	施設の長寿命化計画等を策定した。
施設整備に係る計画支援に関するもの	32	桜塚クリーンセンター基幹的設備改良工事発注仕様書作成事業	亀岡市	長寿命化計画等に基づき基幹改良工事の発注仕様書を作成する。	H24～H24 (H24～H24)	長寿命化計画等に基づき基幹的設備改良工事の発注仕様書を作成した。
	33	プラスチック製容器包装等ストックヤード施設整備実施設計作成事業	亀岡市	実施設計書を作成する。	H25～H25 (H25～H25)	エコトピア亀岡敷地内に整備するストックヤードの設計を行った。
その他	41	リサイクル活動への支援	亀岡市	使用済てんぷら油のリサイクルなど独自に活動を行なう団体の取り組みを広報支援する。	H23～H27 (H23～H27)	使用済天ぷら油のリサイクルに取り組む市内3団体に対し、リサイクル容器の提供や広報支援を実施した。
	42	事業系廃棄物の指導	亀岡市	事業系一般廃棄物及び産業廃棄物の適正処理を指導する。	H23～H27 (H23～H27)	許可業者に対し、適正排出の指導を行った。
	43	不法投棄対策	亀岡市	パトロールを行い不法投棄の防止を図る。	H23～H27 (H23～H27)	不法投棄の未然防止を目的としたパトロールを実施した。
	44	災害時の廃棄物処理に関する事項	亀岡市	災害廃棄物処理計画に基づき適正処理を実施する。	H23～H27 (H23～H27)	台風等の災害で発生した廃棄物の受け入れし、適正処理を実施した。

3 事業実施による二酸化炭素削減効果について

(1) 削減量 (実績)

亀岡市ごみ処理施設整備改良工事で実施したCO2排出量・削減率検証結果

CO2削減率

第1回目	改良工事前	(H25年2月20～21日 1号炉+3号炉)	年間CO2排出量	2,109.9 t-CO2/年	
	改良工事完了後	(H28年2月 3～4日 1号炉+3号炉)	年間CO2排出量	1,508.4 t-CO2/年	CO2削減率 28.5%
第2回目	改良工事前	(H25年1月24～25日 2号炉+3号炉)	年間CO2排出量	2,093.8 t-CO2/年	
	改良工事完了後	(H28年2月18～19日 2号炉+3号炉)	年間CO2排出量	1,448.1 t-CO2/年	CO2削減率 30.8%

詳細は、別紙（亀岡市ごみ処理施設整備改良工事 CO2排出量・削減率検証結果報告書）のとおり

(2) 削減量に達しなかった場合の原因

4 目標の達成状況に関する評価

(ごみ処理)

排出量

目標値23,208 t に対して実績値 23,098 t で目標を達成できた。

家庭系ごみは、プラスチック製容器包装等の分別収集の効果や、総人口の減少等で排出量が減少しているが、事業系ごみが増加している。

事業系ごみが増加した原因は、ごみ出しルール周知活動により、事業系ごみとして排出する事業者が増加したことが考えられる。

再生利用量

目標値 200 t に対して実績値 170 t で目標を達成できなかった。

人口減等によるごみ排出量の減少やペットボトル回収協力店の脱退が考えられる。

減量化量

目標値17,333 t (全体比74.7%) に対して実績値17,603 t (全体比76.2%) で目標を達成できた。

最終処分量

目標値3,775 t に対して実績値3,854 t で目標を達成できなかった。

事業系の燃やすごみが増加したことや、焼却灰のリサイクルができていないことによる。

(生活排水処理)

合併処理浄化槽等の項目で5,221人に対して3,247人で目標人口を達成できなかった。過疎化に伴う後継者不足と併せて、浄化槽設置工事費及び維持管理費に対する負担が大きな原因と考えられる。

(都道府県知事の所見)

- ・ 排出量については、家庭系の排出量が大幅に減少したことで総排出量も目標値より削減できていた。これは、施策の実施によるごみの減量化に取り組まれた結果と評価できる。
- ・ 再生利用量については、想定していた人口が大きく減少したため、目標達成に至らなかったが、その要因が十分に検討されており評価できる。
- ・ 減量化量については、目標以上に削減されていることが評価できる。
- ・ 最終処分量については、目標に僅かに届いていないが現状に対しては向上しており、大幅に削減されていることが評価できる。

- 生活排水処理については、過疎化に伴う人口減少による影響が大きいため、公共下水道及び合併処理浄化槽等の目標の達成はできなかったが、現状に対しては向上しており、公共下水道の普及率については概ね目標どおりに達しており評価できる。
- 以上のことから、当初の計画より人口が大幅に減少したことによる影響が大きいことが考えられるが当該計画に基づく各施策の実施・継続により、ごみの発生抑制及び生活環境の改善に寄与していると評価できる。
引き続き、更なる施策の推進を図られたい。